

キャンパス名	千葉キャンパス				
授業番号	10577001				
授業名	日本社会と歴史文化 A	形態	講義	単位	2
担当教員	大江 満				
開講学期	2018年度 前学期	曜日・時限	月曜4限		
授業目的	外来文化の受容と日本社会の形成を歴史的に理解することをめざす。				
授業内容	日本列島は海に囲まれた孤立性と、海に開かれた近隣世界との交流により、海洋-内陸志向をくり返して、アジアや欧米の文化を受け入れてきた。日本は海洋志向であった時代の末期に、国家存亡の危機を経験することで、内地型に移行して独自の文化を形成した。授業では、海洋-内陸志向が交互に到来した各時代の文化を紹介しながら、外来文化の受容によって伝統文化が培われてきた日本の社会を歴史学的に考察する。				
到達目標	日本社会の多様性が統合されていく歩みを歴史的に理解し、日本文化と外来文化との深い関連性を認識する。また、日本や地域の文化の由来に対して、さらに関心をもつことができるようにする。レポート試験では、みずから選択したテーマに関する概要と、それとの関連における具体的事例が、バランスよくまとめられているかに留意して、評価をおこなう。				
ディプロマポリシーとの関連性	<DP1-(4)> 人間・文化・社会・国際事情あるいは自然等について幅広い知識と理解を有している。				
授業形態	基本的には講義形式で、講義内容のレジメを配布する。身近な事例の紹介を通して、自分の考えを小レポートにまとめる作業を取り入れる。				
事前・事後学習の所要時間	本科目では、各授業回に2時間の事前学習、2時間の事後学習を必要とする。 合計15回の授業で事前事後学習60時間となる。				
テキスト	大濱徹也『講談 日本通史』 同成社。				
評価方法	授業態度、事前学習、事後学習、授業内レポート試験により総合的に評価する。				
評価基準	授業態度 30点、 事前・事後学習 30点、授業内レポート試験 40点。 ～59点：不可。 60点以上合格。				
試験・レポート等のフィードバック	授業中での質問を受けつけ、必要な場合は発言を求めることがある。 授業内レポート試験の結果は、最終授業回でその解説と総評をおこなう。				
注意事項及び履修条件	授業中の飲食・私語は厳禁。とくに授業が開始されたら速やかに会話を止めること。事前事後学習は当該授業日に提出すること。まとめて何回分かを提出することはできない。事前事後学習および授業内レポート試験は、提出する前に、名前と学生番号が明記されているかをもう一度確認すること。				
S : 100～90、A : 89～80、B : 79～70、C : 69～60、D : 60未満					
第1回					
事前学習	自分が身近で使ったり、無意識に食べたりしているもの、自分がふだん行っている生活習慣や、自分が何気なく参加している日本の年間行事のなかで、外来文化と関係があると思われるものを、用紙（形式自由）に列挙してくる。				
授業内容	現代の日本という「国」概念が、明治期以後の歴史構成において形成されたことを理解し、日本社会が、古代以来の中華帝国文明、近世伝来のキリシタン文化、近代幕末以降のヨーロッパ文明という、大きな波に影響を受けてきた全体像を把握する。				
事後学習	テキストや参考文献を参照して、「日本社会が受容した大きな外来文化」について考察し、用紙（形式自由）にまとめる（分量の目安は1枚以内程度）。				
参考文献	家永三郎 『日本文化史 第二版』 岩波新書。 上垣外憲一 『日本文化交流史』 中公新書。				
第2回					
事前学習	テキスト第1章「大王の下へ」の前半部分（14～32ページ）をよく読み、重要と思われる内容の骨子を、用紙にまとめてくる。				
授業内容	人口を激増させた水稻の文明・青銅器の文化を日本列島にもたらしたのは北東アジア系人種集団であり、集落社会の秩序化と大王という首長権力が登場する古代日本以前の「倭」が、中華帝国文明（漢字文化）圏の枠内にあったことを理解する。				
事後学習	テキストの「漢文の素養が日本近代化の切り札」（22ページ）や、テキストの「倭人の国」、「表1 中国正史にみる日本の呼称」（27～28ページ）などを参考にし、「日本と中国の関係」について、用紙にまとめる。				
参考文献	家永三郎 『日本文化史 第二版』 岩波新書。				
第3回					

事前学習	テキスト第1章「大王の下へ」の後半部分（33~39ページ）と、第2章「天皇によせる眼」（47~57ページ）をよく読み、重要と思われる骨子を用紙にまとめてくる。
授業内容	倭が白村江の海戦で敗れたことにより、唐（中国）帝国の圧倒的な外圧にさらされるなかで内地志向となり、唐の制度である律令、都城制、正史、仏教文化を受容した「日本」が建国されて、天皇＝国家という観念が誕生したことを理解する。
事後学習	テキストや参考文献を参照し、『古事記』や『万葉集』という日本側の文献にみられる「日本という呼称」について学習した内容を用紙にまとめる。
参考文献	家永三郎 『日本文化史 第二版』 岩波新書。 川勝平太 『文明の海洋史観』 中央公論社。 上垣外憲一 『日本文化交流史』 中公新書。

第4回	
事前学習	テキスト第3章「開かれた時代、閉ざされた時代」をよく読み、重要と思われる内容の骨子を用紙にまとめてくる。
授業内容	平安期の日本が中華帝国の華夷秩序から離脱し、自立への胎動をみせた「国風文化」の内実を理解するとともに、鎌倉末期の元寇の日本侵攻失敗により、制海権を失った海洋中国にかわって侵攻した中世・室町時代の倭寇の海上活動の実態を理解する。
事後学習	テキストや参考文献を参照して、内陸志向のいわゆる「国風文化」と、海洋志向の「倭寇」に関する内容を用紙にまとめる。
参考文献	家永三郎 『日本文化史 第二版』 岩波新書。 川勝平太 『文明の海洋史観』 中央公論社。 上垣外憲一 『日本文化交流史』 中公新書。 田中健夫 『倭寇』 教育社歴史新書。 村井章介 『中世倭人伝』 岩波新書。

第5回	
事前学習	テキスト第4章「転換期の人心」（88~100ページ）の前半部分をよく読み、重要と思われる内容の骨子を用紙にまとめてくる。
授業内容	古代から中世社会、平安王朝から鎌倉幕府、公家から武家といった転換期の人心を、慈円『愚管抄』と北畠親房『神皇正統記』に学び、農村社会から登場した武者の家訓としての一夫一婦的な慣行のはじまりを、古代の公家文化の性と対比させて理解する。
事後学習	テキストや参考文献を参照して、「古代の公家や中世の武家の性文化」について、「開放的性文化とモラル化の出現」というキー・ワードを念頭において、用紙にまとめる。
参考文献	家永三郎 『日本文化史 第二版』 岩波新書。

第6回	
事前学習	テキスト第4章の「末法の世における救済」（101~109ページ）の後半部分と、テキスト第5章「鎌倉仏教の顛末」をよく読み、重要と思われる内容の骨子を用紙にまとめてくる。
授業内容	奈良時代の国家仏教や最澄と空海の顕密仏教を経て、末世における個人の救済をあげて登場した鎌倉新仏教を学び、法然（浄土宗）・親鸞（浄土真宗）、栄西（臨済宗）、道元（曹洞宗）、日蓮（日蓮宗）、一遍（時宗）らの宗教思想を理解する。
事後学習	テキストや参考文献を参照し、旧仏教を批判した「鎌倉新仏教の他力救済と自力救済」について用紙にまとめる。
参考文献	家永三郎 『日本文化史 第二版』 岩波新書。 上垣外憲一 『日本文化交流史』 中公新書。

第7回	
事前学習	テキスト第6章の「キリシタンの世紀」をよく読み、重要と思われる内容の骨子を用紙にまとめてくる。
授業内容	戦国時代の下克上の社会から信長、秀吉が天下を統一していくなか、16世紀のキリシタン（「南蛮」）文化との接触と、日本の伝統文化の相型となる、応仁の乱以降の書院造、連歌、茶道・華道、能狂言などの安土・桃山文化を理解する。
事後学習	テキストや参考文献を参照して、日本に最初の西洋文化をもたらした「イエズス会宣教師の日本文化研究」について用紙にまとめる。
参考文献	家永三郎 『日本文化史 第二版』 岩波新書。 ルイス・フロイス 『ヨーロッパ文化と日本文化』 岩波文庫。

第8回	
事前学習	テキスト第7章の「徳川の王国」をよく読み、重要と思われる内容の骨子を用紙にまとめてくる。
授業内容	秀吉の朝鮮侵攻が失敗し、その後内陸志向となった日本が、高い自給率とオランダ、琉球、中国、朝

	鮮、蝦夷地との限定交易で補完する徳川幕府の鎖国 (=海禁) による平和な世で育んだ歌舞伎、浄瑠璃、浮世絵、俳句などの元禄文化を理解する。
事後学習	テキストや参考文献を参照し、「元禄文化の町人芸術」について、「戦のない時代の武士」というキー・ワードを念頭におきながら用紙にまとめる。
参考文献	家永三郎 『日本文化史 第二版』 岩波新書。
第9回	
事前学習	テキスト第8章の「国民文化への芽」をよく読み、重要と思われる内容の骨子を用紙にまとめてくる。
授業内容	田沼意次の財政再建と松平定信の寛政の改革後、藩の領域を越えた国内交易による日本の国民経済の創出を背景に、百姓や町人らの旅文化が隆盛した江戸後期の化政文化と、幕府統治のイデオロギーである朱子学、儒教古学、国学、水戸学を理解する。
事後学習	テキストや参考文献を参照し、「化政文化」について、「物と情報の国内流通」というキー・ワードを念頭において、用紙にまとめる。
参考文献	家永三郎 『日本文化史 第二版』 岩波新書。 上垣外憲一 『日本文化交流史』 中公新書。
第10回	
事前学習	テキスト第9章の「維新前夜の世界」をよく読み、重要と思われる内容の骨子を用紙にまとめてくる。
授業内容	19世紀初頭の欧米による世界資本主義が一体となって日本に開国をせまる外圧の危機のなかで、倒幕の原動力と明治維新以後の国家精神の基軸となっていく御陵補修運動、南朝顕彰運動（楠公信仰）、神武天皇信仰の三つの精神文化を理解する。
事後学習	テキストや参考文献を参照し、「幕末の御陵補修運動、楠公信仰、神武天皇信仰」の三つの精神文化運動について用紙にまとめる。
参考文献	大濱徹也 『日本人と戦争』 刀水書房。
第11回	
事前学習	テキスト第10章の「戊辰戦争への道程」をよく読み、重要と思われる内容の骨子を用紙にまとめてくる。
授業内容	幕末の砲艦外交による日本開国と不平等条約締結、政争内乱のなかで、国学者の本居宣長、平田篤胤らが主張してきた外圧に対抗する皇国（神国）意識が、尊王（皇）と攘夷（じょうい）思想として普及した日本のナショナリスティックな表現を理解する。
事後学習	テキストの「攘夷とは何か」（224ページ）と、テキストの「攘夷の思想」（241~246ページ）を参考にし、「攘夷」について用紙にまとめる。
参考文献	大濱徹也 『日本人と戦争』 刀水書房。
第12回	
事前学習	テキスト第11章の「文明開化の下で」をよく読み、重要と思われる内容の骨子を用紙にまとめてくる。
授業内容	未開・野蛮な国や地域を文明化するという植民地支配の論理を支えた、文明および体制の宗教としての欧米のキリスト教による、明治国家の需要を満たした教育事業と、明治政府が文明化の名のもとに創設した、西洋由来の国家祝祭日について学習する。
事後学習	テキスト第11章の後半部分（264~276ページ）や参考文献を参照し、「国家祝祭日」について、「明治政府による国家の文明化」をキー・ワードにして用紙にまとめる。
参考文献	大濱徹也 『日本人と戦争』 刀水書房。
第13回	
事前学習	テキスト第12章の「駆け足進軍の季節」をよく読み、重要と思われる内容の骨子をまとめてくる。
授業内容	明治中期の憲法制定整備や日清戦争を契機に、日本の歴史像と藩（クニ）意識を超えた「国民」意識が創出されるなか、日本語でなく「国語」を確立し、蝦夷地北海道と琉球沖縄の生活習俗の改変を強要した政府の文明化方針を学習する。
事後学習	テキスト第12章の部分（282~291ページ）を参考にし、「習俗生活の改変」について、「中央政府による辺境地の文明化」をキー・ワードにし用紙にまとめる。
参考文献	大濱徹也 『日本人と戦争』 刀水書房。
第14回	
事前学習	テキスト第12章の「天皇神格化の論理」（291~293ページ）と、テキスト第13章の「大東亜戦争の論理」をよく読み、重要と思われる内容の骨子を用紙にまとめてくる。
授業内容	明治維新以降の西洋を範とした文明化と富国強兵による近代化で日本は欧米列強の仲間入りを果たすが、昭和初期の十五年戦争による世界との総力戦のなかで、日本の精神的優位を生み出す論理として内外に喧伝された神国日本や天皇神格化を理解する。

事後学習	テキスト第13章の前半部分（296~305ページ）を参考にし、明治期から昭和期までの「絶え間ない戦争と徴兵令」について、「戦争と徴兵令のない戦後の日本」というキー・ワードを念頭に、用紙にまとめる。
参考文献	大濱徹也 『日本人と戦争』 刀水書房。

第15回	
事前学習	授業内レポート試験でみずから選択したテーマ以外のテーマを1つ選び、その内容をレポート用紙1枚以内程度で概述する。
授業内容	授業内レポート試験の結果の解説および総評。
事後学習	日本社会が海外との交流によって、世界に開かれた状況における多様性にもとづいて育んだ日本独自の文化の現象や営みを、具体的な事例を挙げて、レポート1枚以内でまとめる。
参考文献	授業配布プリント。

※この他に試験が実施される場合があります。担当教員の指示に従ってください。

ディプロマポリシー	<p><DP-1> 【社会の構成員としての基本的知識・技能・態度】 社会生活で必要となる汎用的技能及び社会の一員として求められる態度や志向性を身に付けているとともに、人類の文化、社会と自然に関する知識について理解している。</p> <p><DP1-（1）> 日本語及び外国語によるコミュニケーション能力を身に付けている。</p> <p><DP1-（2）> 情報通信機器の活用に関する知識・技能を持ち、利用における法令順守の態度を身に付けている。</p> <p><DP1-（3）> 問題を発見し、課題を解決する能力を持ち、立案・実行過程で主体性を持って協働できる態度を身に付けている。</p> <p><DP1-（4）> 人間・文化・社会・国際事情あるいは自然等について幅広い知識と理解を有している。</p>
-----------	---